

# 地域連携に関する取り組み紹介

MIRAI Care Network（ミライ・ケア・ネットワーク）  
がん患者さんの未来を支える連携

2025年度  
地域緩和ケア連携調整員研修（アドバンスコース）

## 【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名(職種)
高知大学医学部附属病院 腫瘍内科 佐藤 拓弥（医師）	
高知大学医学部附属病院 腫瘍内科 市原 大聖（医師）	
高知大学医学部附属病院 医事課 小林 保数（事務次長）	
高知大学医学部附属病院 がん治療センター 弘末 美佐（看護師）	
大井田病院 内科 竜野 真維（医師）	
大井田病院 清水 優斗（4階病棟看護師）	
大井田病院 井上 早希（3階病棟看護師）	
大井田病院 宮崎 麻未（外来看護師）	
大井田病院 地域連携室 坂江 真知（看護師）	

## ① 選定した地域の課題

### 「中央医療圏と幡多医療圏の情報共有と連携の強化」

幡多医療圏から中央医療圏（車で3時間程度）に通院しているがん患者さんに対して、専門的がん治療の継続に必要な地域間での情報共有が十分にできていないことが課題

## ② どんな地域を目指すのか

『幡多地域でがん治療を受ける患者さんが  
安心して暮らせる地域づくり』

### ③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- ・ タイムラグなく情報共有できる環境を目指す
  - ・ 顔の見える関係性の構築と強化
- 治療を受けるがん患者さんの支持療法の充実  
緊急受診時の正確な救急対応  
啓蒙活動

#### 《医療DX化の統一と推進》

実現するためには・・・

- ① 大学-大井田のケースカンファレンスの積み重ね
- ② 成功事例のケースカンファレンスでDX活用の推進
- ③ 行政や医師会等への働きかけ
- ④ 現場スタッフへ利便性を共有する
- ⑤ 積極的な活用を促す
- ⑥ 各医療機関で高知家@ラインの窓口を設置（高知家@ライン普及ブース設置）
- ⑦ 幡多医療圏に高知家@ラインの登録を促す必要性を啓発する
- ⑧ 薬薬連携（TRの活用）の推進→TRの統一化

## ④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

	具体的な行動計画	目標達成時期
1	行政と連携・はたらきかけ：がん患者の災害パンフレット5000部配布（高知家@ライン加入啓蒙）	来週から R7年度内
2	現場スタッフへ利便性を共有する	1月は院内周知 2月より開始
3	高知家@ライン加入率100%を目指す	今から紹介の患者 さんは全例
4	大学-大井田のケースカンファレンス開催	R8年度早期
5	薬薬連携情報を医療DXに反映していく （県薬・病薬への連携）	R8年度早期
6	各医療機関で高知家@ラインの窓口を設置 （高知家@ライン普及ブース設置：医療DXセンター主導で依頼）	R8年度内
7	成功事例のケースカンファレンスでDX活用の推進 （勉強会の実施）	R8年度内
8	DX開始後の評価を行い、学会発表する	R8年度内

# R8年度 年間タイムライン（2026/04–2027/03）

## 1. 年度目標（サマリー）

- ① 地域緩和ケアの質向上・連携基盤の強化
- ② 地域緩和ケア連携調整員の専門性向上
- ③ 高知大学HP―大井田HP間の連携プロトコル整備
- ④ 多職種参加型の症例検討と研修（好事例）の定期開催（年3回以上）
- ⑤ 地域関係機関連携の可視化と効果測定

## 2. フェーズ区分

フェーズ	内容	開始	終了
P0	体制整備・計画承認	2026/04	2027/03
P1	現状把握、課題抽出の再確認	2026/05	2026/06
P2	連携プロトコル整備・研修企画案	2026/06	2026/08
P3	実装（症例検討・研修運用）・上半期経過報告	2026/09	2027/01
P4	評価・次年度提案・下半期経過報告	2027/02	2027/03

# MIRAI Care Network (ミライ・ケア・ネットワーク **高知**) Kochi

～がん患者さんの未来を支える連携～

